

04 はじめに

06 茶箱の組み方

監修 小澤宗誠

28 役どころを心得た茶箱

水内清光さん

30 長い時をかけた、優品たちのめぐり合い

矢野謙堂さん

32 秋の浜辺で、童心に返る茶箱

ミヤケマイさん

34 思い浮かべるのは、旅の友

川瀬忍さん

36 道ゆく人へ茶を点てる、用の美の茶箱

中山福太郎さん

38 「仇討ち」を果たした茶籠で、自然と戯れる

海田曲菴さん

40 迎え入れ、送り出す、終わりのない茶籠

上原伸也さん

42 フルオーダーで、現代作家のひとつろい

近藤俊太郎さん

44 仕覆を待ちつづける玉手箱

三浦和子さん

46 李朝に心酔した歩み

大森敬吾さん

48 粹人の後ろ姿を追いかけて

猪鼻徳壽さん

50 旅のお供は、手のひらほどの小さな茶籠

川口嘉之さん

52 各地の作り手と生み出す、機能美の茶箱

小泉誠さん

54 お茶の発祥、中国に思いを馳せて

小澤宗誠さん

56 時空を超えて寄り添い合う道具たち

池澤宗陽さん

58 諸国の古美術で、思い出の博覧会

阿曾一実さん

60 古きもの、新しきものの融合を試みる

寺田ひと美さん

62 親子三代で造る喜び

三代池田瓢阿さん

64 旅の記憶を呼び起こす、世界の宝物箱

村瀬亜里さん

66 茶箱を組み、まとわせる愉しみ

堀畑裕之さん

76 滴翠美術館

76 桐木地蔦繪扇蒔絵茶箱

69 あこがれの
名品拝見

70 猿鶴蒔絵茶箱

湯木美術館

72 唐物竹組大茶籠

三井記念美術館

74 琉球朱塗螺鈿篋筒茶箱

野村美術館